

LS研究委員会

研究分科会／短期研究分科会

LS研究委員会では、2016年度研究分科会／短期研究分科会の参加者を募集いたします。
LS研究委員会のスローガン「Challenging Innovation」のもと、IoT、セキュリティ、オープンデータ、機械学習などのICTにおける最新技術を中心に研究分科会20テーマ、短期研究分科会3テーマを用意しました。多数のお申し込みをお待ちしております。

参加者
募集中

2016年度活動

■研究分科会 <4月から翌年3月まで1年間、原則月1回実施>

「先進的ICT適用」や「情報システム部門が抱える課題解決」等について、問題意識を持ったメンバーが集まり、Give & Takeの精神で共同研究し成果を創出する活動です。その成果は、論文としてまとめ、参加者の実務に役立つものとし、翌年のLS研総合発表会で発表いたします。1年間の研究活動を通じ、今後の情報システム部門を担う人材の育成も目的としています。

カテゴリ	No.	研究テーマ名
ICT 戦略／人材育成	1	マルチクラウド時代の情報システム部門と利用部門のあり方
	2	SoE [*] で考えるこれからの ICT 戦略 ※SoE: Systems of Engagement
	3	IoT 時代の情報システム部門の役割と人材像
	4	品質マインドの醸成に向けた組織的取組みの研究
	5	高品質でスピーディーな要求仕様作成の研究
技術／技法	6	利用者ニーズ指向のテスト直結型開発の研究
	7	WebAPI を活用した開発方法の研究
	8	環境変化に柔軟に対応できるシステムの研究
	9	コンテナ技術を利用した PaaS 向けプラットフォームの適用に関する研究
	10	オープンデータの利便性向上を実現するカタログサイトの最適化とデータの加工方法の研究
	11	マルチデバイスを前提としたモバイル開発手法の研究
	12	継続的システム開発におけるテスト効率化手法の研究
	13	ハイブリッドクラウドにおけるネットワークセキュリティのあり方
	14	多種多様な NoSQL 系データベースの活用方法の研究
管理／運用	15	システムメンテナンスにおけるナレッジ蓄積と活用方法の研究
	16	運用ログを活用したアノマリ事象の検知と活用に関する研究
	17	業務システム運用改善のための実態調査手法の研究
	18	マルチクラウド時代の運用管理のあり方
	19	ユーザーID管理の効率的かつ厳格な運用の実現に向けた研究
新分野	20	機械学習を中心とした人工知能および関連技術の活用法の研究

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください。)

過去の研究成果は ▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lscen/activity/work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

■短期研究分科会 <4月から9月まで半年間、原則月1回実施>

よりタイムリーで先進的なテーマを取り上げて、その情報共有や意見交換に重点を置いた半年間の調査・検討を実施し、調査報告書をまとめる活動です。
1年間の研究分科会と同様に富士通グループよりテクニカルアドバイザーが参加し、活用をサポートします。

No.	研究テーマ名
1	企業におけるグローバル対応のあり方
2	ソフトウェアテストの新国際標準規格(ISO/IEC/IEEE 29119)の先行研究
3	実用ロボットの現状と今後の可能性に関する研究

過去の研究成果は ▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lscen/activity/s-work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

2015年度活動報告

ジョイントフォーラムは、次世代ICTの方向性に関わるキーテクノロジーやビジネス戦略についてLS研会員の部門長の方々と富士通グループのSEおよび製品・サービス開発部門の責任者が直接意見を交換する場です。

LS研セミナーは、ICTに関わる先進的な取り組みについて情報交流を行う場です。

ジョイントフォーラム

経営者・部門長向けイベント 年1回実施

「機械学習を活用した情報システムの展望」

2015年ジョイントフォーラムは「機械学習を活用した情報システムの展望」と題して、10月29日(木)に富士通株式会社 汐留本社にて開催されました。

今回は「見える化」から「予測」へ進化しつつある情報利活用を支える「機械学習」技術の現状とビジネスへの適用動向および、富士通の取り組み事例について紹介されました。

その後に行われた意見交換では、ビジネスへの適用方法や人材育成の課題が議論となり、その中で、パナソニック インフォメーションシステムズ様より、データ利活用事例と人材育成方法と体制維持に対する課題について紹介されました。

今後の重要な技術となるテーマに対して、LS研幹事と富士通がお互い手探りの中で、まさしく予定調和のない議論となり、富士通の方向性を理解していただく貴重な場となりました。



■会員のコメント

- 製品のスマート化・IoTビジネスにシフトが必要な状況の中で、機械学習は進化の中で避けて通れないテーマと認識している。機械の進化と人が進化すべき領域があるように感じた。
- お互い手探りの中での議論という印象だが、機械学習の可能性は、より感じるようになった。
- 会社の事例、業種の違いによる考え方の違いが良く分かった。
- 現実の問題としている事項であったこともあり、これまでのジョイントフォーラムで、一番満足できた。

LS 研セミナー

ICT部門の部長～リーダー層向けイベント 年3回実施

2015年度 第2回LS研セミナー(東京、大阪) 「クラウド導入によるビジネスの変革」

2015年度のLS研セミナーは、「クラウド」を年間テーマに3回シリーズで実施しています。

第2回は東京に加えて初めて大阪でも開催し、東京は11月27日(金)、大阪は11月30日(月)に実施しました。両日共に『クラウド導入によるビジネスの変革』をテーマに、お客様の事例講演(東京:明治安田生命保険(相)様、大阪:大和ハウス工業(株)様)や2015年度LS研ICT白書のご報告、パネルディスカッションを交えて深掘りしました。

大阪開催のパネルディスカッションでは、コーディネーターとして(株)インプレス IT Leaders 編集主幹 田口 潤 氏、パネリストとして大和ハウス工業(株)様(講演者)、(株)日本アクセス様、富士通(株)が登場しました。『クラウド時代における情報システム部門の位置付けと役割』をテーマに、テンポの良い進行で多岐にわたる切り口にて議論をおこないました。パネリストの皆様からは、ICT部門としてどうあるべきかについて忌憚のない様々なご意見がありました。また、田口氏から会場の参加者に二択の質問を投げかけてその理由を伺うなど、参加型で実施することで有意義なセミナーとなりました。



■参加者のコメント

- 大和ハウス工業様の、持たないITについての考え方がとても参考になった。
- このような白書が40年近く前からあったのを初めて知った。
- クラウドだけでなく、ICT部門としてどうあるべきかの議論は、自分の役割を再考するのにも役立つ内容であった。
- 人材育成について色々な考え方が聞けたことが良かった。
- 参加型のセミナーなので、楽しく当社を分析できました。関西でも継続してほしい。

情報化調査

LS研 ICT白書

LS研会員企業における
ICT活用の現状と今後

LS研ICT白書は、LS研究委員会の会員企業におけるICTの活用の現状と今後を把握することを目的に調査した報告書です。

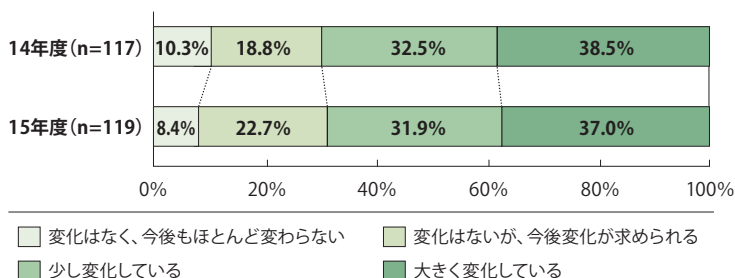
Give&Takeの精神に則り、調査にご協力いただいた会員の方のみに配布をしております。2015年度も多くの方々にご回答いただきまして誠にありがとうございました。

今年度のICT白書では、従来の調査テーマに加え、会員団体におけるクラウド活用の進展状況というテーマを新規に設定致しました。

情報システム部門の役割の変化

情報システム部門の役割については、大きく変化している、あるいは少し変化しているという割合が68.9%となっている。(図表1)。2014年度は7割を超えていた割合は、今年度は6割台になったものの引き続き情報システム部門の役割変化が加速していると言える。

図表1 情報システム部門の直近2年間の役割変化に対する認識
2014年度との比較(有効回答: 119会員)

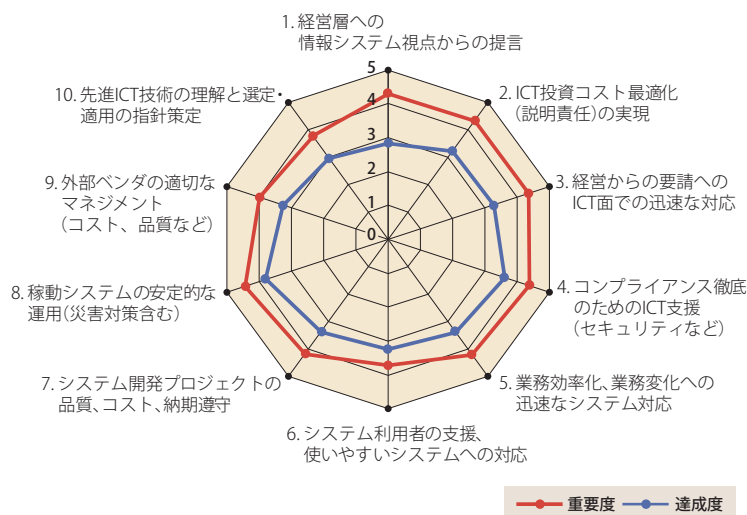


情報システム部門の役割と機能

情報システム部門の役割として最も重要視されているのは、「稼働システムの安定的な運用」、次いで「コンプライアンス徹底のためのICT支援」、「ICT投資コスト最適化の実現」「経営からの要請へのICT面での迅速な対応」となっており、2014年度から3位と4位が入れ替わった。

また、重要度と達成度の差分の傾向は、「システム利用者の支援、使いやすいシステムへの対応」や「稼働システムの安定的な運用」など従来から情報システム部門に求められている役割・機能に対する達成度は高い。一方で、「経営層への情報システム視点からの提言」や「ICT投資コスト最適化の実現」などの新しい役割・機能についてはシステム部門として対応しきれていない意識が強いことが伺える。

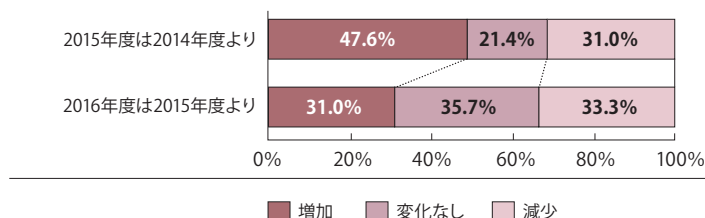
図表2 情報システム部門の役割と機能に対する重要度と達成度の認識
(有効回答: 109会員)



ICT投資状況

2015年度は2014年度よりICT投資額を「増加する」が「減少する」を上回っているが、2016年度は2015年度よりもICT投資額「増加する」割合が「減少する」割合を下回っており、変化なし～減少傾向にある。

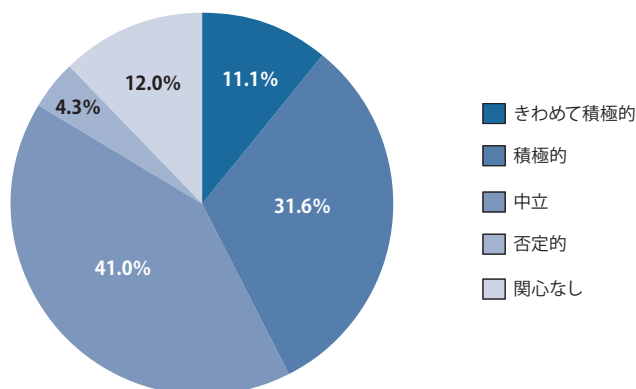
図表3 ICT投資額の増減傾向（有効回答：42会員）



経営陣のクラウドに対する意識

経営陣の積極性は「中立」が最も多く41.0%、続いて「積極的」が31.6%となっている。「きわめて積極的」「積極的」を合わせると4割強、「中立」まで加えると8割強となり、クラウド活用には中立以上～積極的であるといえる。

図表4 経営陣のクラウドに対する意識（有効回答117会員）



経営や事業の観点からのクラウド利用に対する課題や懸念事項について

クラウド利用に対する課題や懸念事項については「セキュリティ、情報漏洩の問題」が最も多く86.8%、続いて「提供者側の事業停止・提供者事情によるサービス終了」が59.6%で、この2項目が過半数を超えている。

図表5 経営・事業観点からのクラウド利用に対する課題や懸念事項について（有効回答：114会員）

